

き ぼ う

青少年育成広報

第 30 号
 発行人
 青少年育成那珂市民会議
 会長 関 守



那珂市中央公民館 (R元.9.7)

なかっこ・キッズクラブ① 第4回教室「クッキングを楽しもう」

生きる

ばら野学園那珂市立菅谷西小学校六年 川上 大翔
 生きているということ
 いま生きているということ
 それは勉強ができるということ
 食べること歩くことができること
 明日を知ることができないということ
 今あるものを大事にできるということ

それは命 それは友だち
 それは家族 それは地球
 すべてのものを大切にできるということ
 そして、
 毎日、いつも同じではないということ
 でも、
 いつも通り同じでいいということ
 それが幸せということ 生きるということ

※谷川俊太郎「生きる」を参考にしました。

一日

白鳥学園瓜連中学校 九年 大類 佳秀
 今日も一日は過ぎていった
 夕日を見ていた散歩途中の犬が
 「さよなら」
 と別れを告げる
 今日も一日は過ぎていった

ポインセチア

白鳥学園瓜連中学校 九年 和田 龍星
 石油が匂う
 ストープに温められながら
 赤い色に金色の粉が
 光を反射させ
 今を
 咲き誇っている

青少年健全育成のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。



「親が変われば、子どもも変わる」運動 那珂市推進大会



令和元年11月16日(土)
於 市総合センターらぼーる

この大会は、時代を担う青少年が、心身共に健康で人間性豊かに成長することを願い、毎年開催しています。幼小・中・高、各世代の子をもつ保護者による子育て体験発表と、子育てに関する講演を主な内容としています。本年度は、菅谷小・菅谷東小・第四中・水戸農業高校の保護者代表による体験発表と、茨城県青少年心理アドバイザー阿部誠一先生の講演会を行いました。ここに「子育て体験作文」を掲載しますので、皆様の子育てや、より明るい家庭づくりのための参考にしてください。

育児休暇奮闘記

わかすぎ学園那珂市立菅谷小学校保護者
赤崎 浩之

私の家族を紹介します。妻一人と四人の子どもたちがいます。長女は小学三年生、長男は小学一年生、次男は五歳、三男は三歳です。次男と三男は保育園でたいへんお世話になっております。四人とも性格がまるで違っていてもおもしろいです。長女はせっかちだけども臆病。小さい子の面倒を見ることが好きです。長男はマイペースで泣き虫の大型晩成タイプ。外では癒し系と言われているようです。次男は落ち着きがないけど細かい。洗濯物を誰よりもきれいにたたみます。三男は気が強く負けず嫌い。世渡り上手な感じですが、私が今、密かに楽しみにしていることの一つは、子どもたちの血液型検査をすることです。四人ともまだ血液型を調べていません。私がA型、妻がB型なので、子どもはA型、B型、O型、AB型すべての可能性があるということです。私は、全員が違う血液型だろうと予想しています。

さて、四人目の妊娠が分かったとき、妻は言いました。「四人目はパパが育児取ったら? いや、取ってほしい。」と。私も、四人目だしやってみようかと思いい、ダメもとで上司に相談しました。当時、私は教員だったので校長に相談しました。その答えは、「それは育児を取らなければだめです。取ってください。」でした。四人目が生まれる九か月前だったと思います。次年度の校内人事について配慮していただきました。しかし、私の代替の講師の先生がなかなか見つからず心配していました。校長先生もたいへん苦労されたと思います。引き受けてくださった先生にも感謝しています。いろいろな方々のおかげで育児休暇を取ることができました。しかし、辛かったのは、当時、顧問をしていた女子バレーボール部の生徒たちに伝えるときでした。総体が終わり、新チームで頑張っていたことが意気込んでいた彼女たちに、休暇を取る直前に一緒にバレーができないことを伝えるしかなかったからです。生徒からすれば、「なんで先生が育児休暇をとらなければいけないの? 新チームでバレーをやっていくところなのに。」という思いがあったのです。「しかも、なんで突然に?」という思いが強かったことでしょう。校長先生とも、いつ伝えるべきか相談していました。あまり早すぎても総体を控えているの

で、そちらに影響が出るし、無事に産まれるかどうか分からないし。女性の教師ならば妊娠していることが分かれば、生徒でも産休や育休を取ることは想像できるでしょう。見捨てられたいような気分になっていたと後から生徒たちに聞きました。

いろいろな方々に感謝しつつ、心配事もありながら七月から翌年の三月までの八か月間の育児休暇に突入しました。前半は妻とともに育休をいただき、私は育児見習いとして、ミルクの作り方から飲ませ方、離乳食の作り方、そして毎日の家族の夕食作り、保育園児の準備物等、さまざまなことを学びました。最もたいへんだと感じたことは、泣いている赤ちゃんの要求を理解できなかったことです。オムツの交換？お腹すいた？眠い？遊びたい？等、？？？の連続でした。こんなときママなら分かるのでしょうか。やつぱりママの代わりはできないのかなと思いました。それでも機嫌よく遊んだり、すやすやと眠っている顔を見ていたりすると愛おしくて抱きしめてしまします。私が幼いときの顔とそっくりです。因みに、四人とも私に似ていると言われます。

次にたいへんだと感じたのは、毎日の夕食の献立を考えることでした。子

どもたちの栄養バランスや味の好みを考えて、保育園の迎えに行く時間も気にしながら調理するのに苦労しました。保育園は、四人目をおんぶして三人を送迎していました。おんぶ紐を使つて私の背中にした日々を、三男は覚えているだろうか。保育園の三人が帰宅すると、戦争のようになるので、その前に夕食の支度を済ませたいのですが、最初のころは手際が悪いので、支度の途中で迎えに行くことが多い、思うようにいきませんでした。妻

からの帰るコールが待ち遠しかったです。それでも、文明の利器を使いながら、クックパッドでレシピを検索したり、料理番組を観てメモをとったりして美味しく子ども受けする料理の勉強をしました。その甲斐あって、柔らかジュシーハンバーグ、パラパラチャーハン、鶏のから揚げ、回鍋肉など得意料理が増えました。子どもたちにも美味しいと言われると嬉しくて、今でもいろいろな料理にチャレンジしています。我が家では、現在、早く帰宅した方が夕食の支度をするものになっています。とは言っても、平日は、私が調理する方が多いので、育休中に集めたレシピが役立っています。

育休を取つてよかったことは、日に日に成長する子どもの姿をじっくり見

られたことです。寝返りの練習を一緒にやっていた様子を動画で撮影したのを見ると、懐かしく、その時のことを鮮明に思い出せます。お座り、ハイハイなどできることが増えていく様子を間近に見ることができて、子育ての喜びを今まで以上に感じました。何よりも、まだまだ小さかった子どもたちと過ごしたたくさん時間は宝物です。八か月間もお休みをいただいて、こんなに大きな宝物を得られたことに感謝します。

育児休暇を終え、三男も二歳ぐらいになったある日、子ども同士で、「パパとママのどっちが好き？」という話をしていました。長女は両方。長男はママ。次男はパパ。三男は…、ママ!! でした。次男まではなるほどと思えます。長女は、都合よく両方を使い分けているのです。長男はパパは怒ると怖いからと言います。次男は、彼が二歳のころ三男が生まれたので、長男と三男にママを取られてしまい、パパにいたのでしよう。次男だけは、何をするにもパパと！と言うことがほとんどです。でも、三男は何ゆえにママなのか？あんなに一緒に過ごしたのに！今では、朝、保育園に行くときは、ママがいないと大泣きです。「ママがいい。ママ、ママ。」とすでに出勤してい

ないのに、玄関を裸足で飛び出します。改めて、やつぱりママにはかなわないなあと思います。しかし、そんな三男も一時期は、ある決まったことをお願いするときだけ私のところに来ました。それは、入浴後の着替えです。オムツを履かせて、パジャマに着替えるときだけは、私のところに駆け寄り、ママがやろうとしても「パパと！」と言っていました。兄弟の中で唯一だつたと妻が言っていました。彼の中で、何かがあつたのでしょうか。それはそれで嬉しかったですが、現在のママ一途な様子を見ると少し寂しいです。

こんなこともありませう。長男や次男が、料理を手伝ってくれることがあるのです。包丁を持たせるのは怖いのですが、ゆとりがあるときはやつてもらいます。特に、次男は家事手伝いが上手です。性格もあるのですが、洗濯物をたたんだり、部屋の片づけをしたり、玄関の掃除をしたりと、「パパ、助かるでしよ〜。」と言いながらやつてくれます。パパが育児や家事をやっているのを見て、それが普通のことになれば、将来、彼らも育児に参加することでしょう。

これからは、そういう社会になつてほしいと願います。職場や社会の理解と協力を得られなければ、男性の育児

休暇取得は難しいです。数日でもいいから育児休暇を取得したり、時差出勤を活用したりして、かけがえのない子どもとの日々を大切に過ごせて、父母が協力しながら子育てを楽しめるような働き方ができる、そんな世の中になつてほしいです。

親として コーチとして

わかすぎ学園那珂市立菅谷東小学校保護者
横山 裕之



私の子どもは三人。中三の長男、小六の長女、小一の次男です。「子どもとの関わりは？」と問われても、恥ずかしながら十分に行っているとは言いがたいのが現状です。特に、昨年までの六年間は中学校勤務だったこともあり、ほぼ子どもたちの顔を見られないというのが平日の状況。そんな私が唯一お話しできそうなことは、ラグビーを通じた長男との関わりです。

長男からすれば、ある意味迷惑な話かもしれません。と言うのも、長男が二年生までの二年間、私は菅谷東小勤務。ラグビーについても一年生から六年生まで所属していた少年団でコーチとして携わり、中学校のチームに入っても私がコーチングスタッフをしているからです。指導者の中に父親がいるというのが九年間も続いているというのは、いったいどんな気持ちなのか…。長男は、小さい頃からよく食べる子どもでした。ご飯をたくさん食べてすくすくと育ち、保育園で一番大きな子に。当然、体重も。小学校に入学すると、

同級生より頭一つ大きく、目立つ子でした。長男が一年生当時、菅谷東小に勤務していたため、担任の先生や保健室の先生と職員室で長男の体重の話題になることもしばしば。とは言え、本人は運動があまり好きとは言えず、今後の体のことが心配になっていました。

九月の体重測定で体重が大幅に増えてきたこともあり、長年親交のある那珂ラグビースクールのコーチに練習日を確認し、思い切つて体験に。コーチと冗談で「息子が少年団にはいたら、コーチ手伝えよ」と言われていたことが、まさか現実になるとは…。そこから長男のラグビー人生と、私のコーチも始まりました。

長男が入った後、同級生が五人入団してにぎやかに。しかし、彼らは練習中でも遊び中心でのびのびと…。四年生になつてくると、次第にラグビーの楽しさを理解してきて、おもしろいチームになつてきました。ただ試合になると、他の子達が積極的に相手に当たりながら得点しているも、長男は相手に思い切り当たることができませんでした。体が人一倍大きくて、突破力を期待しているのにどうしても…。理由は、一年生の時にタックルにきた子を思い切り吹き飛ばしてしまったから。ケンカなんてしたことがなかった

ため、自分が飛ばしてしまったことがトラウマになったというのです。あまりにも意外な理由に私が困惑してしまいました。高学年になると、大きな体を利用して突破することの楽しさを理解して活躍できるようになってくれたのでほつとはしました。

自分のプレースタイルは、「ボールを持った相手は突つ込む」「目の前にボールを持った敵がいたらタックル」それが当たり前。そんなに体格的に恵まれていなかった私と比べ、長男は体格的に恵まれている。ならば、もっと積極的に突進できるはずと、指導中は他の子達以上に厳しく声を上げていました。ヘッドコーチからは「自分の子どもに厳しすぎる」と言われていたものでした。しかし、このことがきっかけになつて、「体格や経験が違うならプレースタイルが違って当然」と考えるようになりました。「自分が体験し、理解しなければ変化はない」と、教室では話していたことが、自分の子には伝えられていない自分…。少年団の中では親としての感情をコントロールする難しさを実感しました。

中学校のクラブチームに入つてからは、私と同じように「パパさんコーチ」がたくさんいます。その中でよく話題にあがるのが「ついつい自分の子には

厳しくなってしまう」という同じ悩みをもっていること。やはり、プレーヤーとしての自分の経験と、目の前にいる子どもの姿のギャップで厳しく言いたくなってしまうのは同じなのです。しかし、コーチの人数がある程度いると、「自分の子に厳しい指導が集中して…」ということと役割分担でうまく回避することができず。これは本当にありがたいことだと感じています。

どのスポーツでも、子どもが親と同じスポーツを始めると、コーチでなくとも「ついつい厳しくしてしまう」という話はよく聞きます。反対に無関心でもそれはそれで困ります。そのバランスは本当に難しい。そんなときに、気軽に話せる仲間がいることが本当に大切なんだと感じています。自分にとって、コーチとして携わってきたこの九年間の経験は、周囲から教えられたこと、子どもに気づかされたことの蓄積です。

この先、長男がラグビーを続けるかは分かりません。続けたとしても、自分の指導の機会はほとんどないでしょう。これからは、いろいろな人々と出会い、その中で経験したことから自分のスタイルを獲得していくはずですが、そのベースに自分が伝えたことが少しでも入っているとうれいのですが…。

つまずいたら

わかすぎ学園那珂市立那珂第四中学校保護者
鹿志村 晴 美

私たち家族は個々のプライベートを充実したものとするために本人の意思を尊重しています。なんて言うとかっこいいかもしれませんが、実は過保護に接しているのかもしれない。私も今も子供の頃の夢を追っていて、過去の自分の気持ちと経験を思い出しながら三人の子を育ててきました。

そしてこの機会に母の気持ちも考えながら、これからの自分がどうあるべきなのかを考えています。

私は、親には何の相談もできませんでした。否定されるのが嫌だからです。買って欲しい物、やりたいこと、将来の事も、なぜ相談できなかったのか今でも考える事があります。親に従う時代だったのかもしれませんが。

子供達には、何でも話してもらえようにと友達親子としてコミュニケーションを大切にしてきました。実際は、長時間働く事を優先し、家にはいないことが多かったと思います。現在の上の子二人は成人し、自分の道を歩んでいます。

一番上の子は不満ばかり言うし、二番目はたまに来る程度。三番目はマイペースと人格は様々で、面白いです。

まだまだ、私がいろんなことにつまずいているため、たいしたことは言えません。親が変われば子供が変わる」を信じて親の背中を見てもらおうと自分自身がまず、成長したいと思っています。

恥ずかしながら、私もまだまだ未熟者ですから、子供たちはそんな親をどう思っているのでしょうか？腹立つこともあるでしょうね。

私は、みんなと一緒に楽しむ事が充実だと思っています。心や身体が疲れたら休んで、一呼吸して、やり直すの繰り返しです。マイペースなので、人に合わせる事は本当に大変ですが、でも一人でうちにいると太るばかりでつまりません。働いて社会と係ることです。幸せを感じ、何かをしたいという気持ちがあるうまれて、行動を起こす事ができます。

多々失敗はありますが、歳を取るたびに自分の失敗も相手の失敗も許せるようになり、気持ちも軽く出来ました。家族と友達、地域の中でたくさん働いて、美味しいもの食べ、色んな場所にも行き、子供と一緒に親も楽しめたらと思います。

以前、長女が「人をかばって優しくすると馬鹿にされる：おとなしいだけでは、二軍だからと相手にされないし、優しさだけではいじめられる。だから関わらないのが一番」と言った事がありました。

彼女の言葉が強く印象に残っています。強さもないと世間の波にのまれてしまうし、コミュニケーション力がなければ話す内容も浮かびません。

しかし、交流の輪をつくり、コミュニケーション力をUPし、パワーハラメントの自己防衛の知識の習得と言われたら言い返せるぐらいの勇氣も必要だと思っています。そして喧嘩両成敗になれば、お互いに謝れるかなと思います。うちの子が悪かったら頭下げに行こうかな。そのぐらいの覚悟も必要だと思っています。

誰もが自分を守る為に闘っています。くじけなければ乗り越えられない壁はない！自分を理解してくれる人は絶対にいます。

「優しさの中に一筋の強さ」がきつと救ってくれるでしょう！

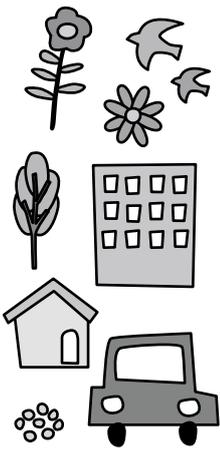
私も母の気持ちを受け止められずここまでできましたが、子供達も母となつた私を理解するまでには時間がかかると思います。支え合いながら、夢を追いかけて、気張らずに子供達をこれから

も全力で応援し見守り続けたいと思います。

最後に、PTA役員として女性ネットワーク協議会に所属しております。子供の環境を整えるのがPTAの役目だと共感しております。

女性ネットワークは、地域の中心となる保育園から高校までの学校のつながりを母親に情報を伝える役割を果たしてしています。子供達を取り巻く大切な課題の解決、情報交換が目的です。その課題の解決は、地域の子供達を幸せにし、やがては自分の子供の幸せに結びつきます。そのためにも、より多くの人のつながりを大切にし親子での改善、研修を通して成長の手助けになりますよう話し合う場を頂いております。皆さんの意見も参考にしていきたいと思っておりますのでお声かけをお願いします。

私の経験が、皆さんの参考に少しでもなれば嬉しく思います。これからも地域に根付いた子育てを支援していきたいと思っております。



子供の变化と親の関わり方

茨城県立水戸農業高等学校 保護者

富山 祐一

子供が大人へと成長していく喜びとともに、難しい年頃となった子供たちとの関わりに悩むことがあります。

私には、高校三年生の娘と高校二年生の娘、また中学三年生の息子がおります。

一番上の娘には、ごく最近PTAの役員について話されたことがあります。中学の時はクラスの子に「お前のお父さん学校に来てるぞ」と、からかわれたりしたのでとても嫌だった。今は、どうかと問いかけてみると「高校では、何もないよ。」と話されてほっとしましたが、私としてはPTAの役員を受けたことで、娘に嫌な思いをさせてしまったと複雑な思いです。

二番目の娘が、幼稚園の年長の時です。私に、娘が「今日、誕生日があったのに、呼び出しされなかった。先生、忘れているのかなあ。」と話されました。次の日に先生に話をしましたら「四月一日の生れなので、来年の三月生れのこと一緒に誕生会を行います。」と話がありました。このことを娘に伝え

ると、娘は「四月生れなのになぜ」と言って理解ができないようでした。

また、小学校の高学年の頃に、先生に名前を「なざくらさん」と呼ばれてからクラスの子から、からかわれたりしたことで、親として名前の付け方が良くなかったと思えました。先生に名前を「なざくら」と呼んだのかと聞いてみようかと、悩んだ時期もありました。

一番下の息子は、小学校六年生の二期の頃に、合わない先生から色々注意されて学校が嫌いになるところでした。

息子の言うことでは「廊下を走ったから注意された。僕だけではないのに」とか「掃除をさぼっている。」と色々な先生の不満が出て来る状態でした。そこで息子に、「ほかの先生はどうかの」と問いかけました。息子は、「ほかの先生に言ってもだめだし、知らないふりする」との返事でした。このままでは息子が、何をやらかすのか、わからない状況でした。そこで、教育委員会に話をしてみると、「子供と先生が合いませんね」と言われましたので、私なりに、学校の転校なども考えるべきではないかと思えました。

また、小学校の担任の先生にこの話をしてみると「先生は解らなかつた。」とのことでした。「今後、私に話をしてください。」とのことなので、息子

に何かあれば担任の先生に話しなさいと伝えました。それからは、合わない先生から息子は相手にされなくなりました。先生にとつて息子は「目の上のたん瘤」だったのかと思えました。

今、私なりに考えてみると一番上の娘は、クラスの子からかわれたのが嫌な思い出なのでしょうが、学校での役員会後に車で帰れることが、娘にとつては嬉しそうだったことなどが思い出されます。

二番目の娘は、四月生れも理解でき、私たちがどのようなおもいで名付けたのか、自分なりには理解していると思います。ただ、今は難しい名前はありますが、読み方には注意すべきと思っております。

一番下の息子には、学校で色々なことはあったかと思いますが、不登校にならずに学校を卒業したことが思い出されます。

これからも、子供が大人へと成長していくうえで色々な出来事があるかと思いますが、子供と話をし、親として良い方向へ向けて行きたいと考えております。

最後に、親として、子供たちが成長していく喜びとともに、私自身も色々な経験ができ子供とともに成長していきたいと思っております。

令和元年12月14日(土)
於 総合センターらぼーる

「家庭の日」 図画・作文発表会 並びに表彰式典



茨城県青少年育成協会は、明るく楽しい家庭づくり県民運動の一環として推進している「家庭の日」を普及させるための事業、絵画・ポスターコンクールを実施しています。青少年育成那珂市民会議は、この趣旨をさらに浸透させるため、コンクールに作文の部を加えると共に、毎年、作品展示・作文発表会・表彰式典を実施しています。本年度は、市内全小中学校から図画123点、作文69点の応募がありました。紙面では、金賞を受賞した作品のみ紹介させていただきます。

ぼくのおとつや

ばら野学園菅谷西小学校 一年

小田倉 尚太郎

「いま、どこにいるかな。」

でんわがなりました。おとうさんからです。

ぼくのおとうさんは、あおもりけんにたんしんふにんをしています。まい

年なつやすみには、おかあさんとおとうと三人で、こうそくどうろにのつてあいについています。

じどうしゃでいわてけんをはしっているとおちゅうだったので、ぼくがでんわにできました。

「もしもし、あどすこしでつくよ。」ひさしぶりのおとうさんのこえです。もうすこしでおとうさんにあえます。うれしくてこころがワクワクしました。

やっど、おとうさんのアパートにつ

きました。おとうさんのかおをみて、とてもほっとしました。

おとうさんがリンゴジュースをつくってまわってくれました。あおもりけんはりんごがゆうめいです。すりおろしたつくりたてのジュースは、とてもあまくておいしかったです。

その日による、ねぶたまつりにいきました。せのたかいたちねぶたです。すごいはくりよくと大きなおととたかさんの人でドキドキです。たかいとこるにも、人がのぼつてたいこをたたいいます。おとうさんとのたいせつなおもいでがひとつふえました。

おとうさんが、いつもぼくにいつてくれていることがあります。はなれていても、いつもこころはいつしよだということ。一か月にいちどしかあえなくても、ぼくたちのためにひとりではんをつくつて、おせんたくをして、いつしよけんめいにおしごとをしてしてくれているじまんのおとうさんです。

これからは、ぼくがおとうさんのかわりにおうちをまもつて、おとうさんをあんしんさせてあげたいです。

ぼくのかざく

緑桜学園芳野小学校 二年

小田部 一仁

ぼくが小学生になって、はじめての夏休みに、ぼくにいもうとがうまれました。いもうとの名まえは、あい子です。ぼくは、あいちゃんと言んでいます。

生まれたばかりのあいちゃんは、とても小さくて、赤ちゃんの人形のようにでした。ぼくは、はじめてあいちゃんに会ったときに、お兄ちゃんになるんだな、と思いました。

なにも一人ではできないけれど、おなががすくとないで、お母さんにミルクをもらったり、ねむくなるとまたないて、だっこしてもらったりしています。ねてばかりだったあいちゃんも、一人ですわれるようになって、ハイハイが出るようになりました。へやの中のハイハイは、とても早くまりました。ぼくがくすぐるとわらつてくれたり、バイバイをしたりするようになりました。いたずらもするようになりました。ごはんをつくつてくれていてお母さ



んのためにも、ぼくはあいちゃんのお
せわをしなければいけないけれど、オ
ムツをこうかんするのがこわいので、
お手つだいできません。お母さんが
あいちゃんのおせわをできないときに
は、ぼくがいつしよにあそんであげて
います。ボールをなげたり、音が出る
おもちゃであそんだりしているけれ
ど、ニコニコとわらってくれるので、
ぼくもうれしいです。
小学生になって、二回目の夏休みに、
あいちゃんは、一才になりました。一
年で色いろなことができるようになり
ました。つかまり立ちをして、つくえ
の上のものをさわれるようになったの
で、つくえの上にあぶないものをおか
ないようにします。これからは、ぼく
があいちゃんのおせわができるよう
になりたいです。

さん歩の時間

青遙学園 横堀小学校 三年

杉山 秀羽

ぼくの家族は、お母さん、二十さ
いのお兄ちゃん、中学校三年生のお姉
ちゃん、ぼくの四大家族です。お兄ち
ゃんも、お姉ちゃんも、ぼくも、みな
お母さんが大すぎです。お母さんは三
人とも同じようにしないといけないか
ら大へんだなと思います。お母さん
は車をうんでんしないので、たくさん買
い物しなければならぬときは、お
兄ちゃんといっしょに買い物に出かけ
ます。ぼくもいっしょに行きたいけれ
ど、いっしょに行つて行つてもらえな
いのでさみしい気持ちになります。
スーパーやコンビニに買い物で
ちよつとだけにもつが多いときは、お
姉ちゃんをつれて自てん車でお買い物
に行きます。そのときもぼくはいっ
しょに行けないので、お姉ちゃんばか
りずるいと思つていやになります。
でも、ちよつとだけのお買い物でカ
ワチやコンビニに行くときには

イライラと大好きと

緑桜学園 芳野小学校 四年

寺門 爽

「しめ羽ちゃん、いつしよに行く？」
と言つてくれるので、とてもうれしい
気持ちになります。近くなので歩いて
出かけます。さん歩をしながら、学校
のことや先生のことや友だちの話をた
くさん話します。虫や花を見たり、夕
やけや星空を見たりしていると、ずつ
とお母さんとさん歩をしたいなど
思います。
ぼくは、るす番の時間はいやな気分
なので、ぼくがお母さんと出かけてい
るときには、お兄ちゃんやお姉ちゃん
も同じ気持ちになっているのかなと気
になりました。お母さんが、みんな同
じように二人だけになつて話をする時
間を、わざと作つていたことがわかっ
たらうれしい気持ちになりました。
お母さんが三人を大切に思つてく
れているように、お兄ちゃん、お姉ち
ゃん、ぼくとつてお母さんは、大切な
たから物です。



ぼくは毎日イライラする。イライ
ラ、イライラ。なんでだろう、イライ
ラが止まらない。
ぼくの家族は五大家族。怒るとこ
わいけど一緒に遊んでくれるじいちゃ
ん。おいしいごはんを作つてくれるば
あちゃん。ぼくにくつついてくる弟の
かいくん。バリバリ働くお母さん。ぼ
くの家族は、ぼくのために色々言つて
くれるけど、それがうるさくなつてし
まう。
「そう君学校どうだった？」とばあ
ちゃん。心の中では、「楽しかったよ。」
つて言えはいいつて分かつてるけ
ど、毎日聞かれると「うるさいなあ。」
つて答えちゃうんだ。だつて聞かなく
ても分かるでしょつて思うんだ。
「そう君宿題どうだ？ここまちがつ
てるぞ。」とじいちゃん。心の中では、
ここ分からないから教えてつて言えは
いいつて分かつてるけど、できない自

分をじいちゃんに知られたくないから「じいちゃんには関係ないでしょ。」って強がっちゃうんだ。

「そう君あのね。」とかいくん。かいくんはぼくと遊びたくて、じやましてきたりする。でもおもちゃをこわされたりして、ぼくだってお兄ちゃんであるのがつかれる。だから「あつち行つてよ。」って言っちゃう。毎日聞かれ、できないのはずかしかったり、お兄ちゃんにいるイヤなこと、全部全部ぼくのイライラなんだ。毎日イライラするけれど、イライラも全部ぼくなんだ。でもね、ぼくは家族が大好きなんだ。じいちゃんと高校野球を応援したり、ばあちゃんがごはんの味見を一番にさせてくれたり、かいくんとレゴで遊んだり、お母さんがくつついてきたりするところは、本当はともうれしんだ。

ぼくは毎日イライラする。でも、それを知っても気にしないでぼくにきまう家族が大好きなんだ。



ぼくと家族と野球

わかすぎ学園 荻谷東小学校 五年

永田 慎之助

ぼくは野球が大好きです。小学三年生から少年団に入り、練習や大会に参加しています。お父さんも野球が好きで、小中高と野球をやっていました。少年団に入る前、休みの日はお父さんとキャッチボールをしていました。これがぼくが野球を好きになったきっかけです。お父さんとやるキャッチボールがとても楽しくて、もつともつと上手になりたいと思いつ少年団に入りました。しかし、少年団に入ると楽しい野球ばかりではありませんでした。きびしい練習やルールやサインなど覚えなければならぬことがたくさんありました。でも、試合で勝つたり、いいバツティングができたりますとすぐうれしくてやっぱ野球が好きだと思えます。お父さんは仕事が休みの日は必ず練習に参加して少年団の手伝いをしてくれます。野球を教えてくださいとお父さんに少しづつだけ上手くなつてい

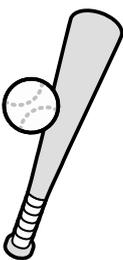
る姿を見せたくて一生けん命がんばります。

お母さんもぼくが少年団に入り野球が好きになりました。プロ野球や高校野球を一緒に見たりします。大会の日など朝がとも早くても、お弁当を作り準備をして送り出してくれます。試合も見に来てくれて応援してくれま

私は、今年の四月から、学童に行かなくなったので、去年までの夏休みより、家にいることが多くなりました。だから、おじいちゃんといっしょにいる時間が長くなり、おじいちゃんの話がよく分かるようになりました。

ぼくが大好きな野球を一生けん命がんばれるのは、お父さん、お母さんが応援し、協力してくれるからだと思えます。ぼくの夢は甲子園に出場し大谷選手のようなプロ野球選手になることです。たくさん練習をして、勉強もしてお父さん、お母さんに活やくする姿を見せたいです。ぼくは少年団に入ってから休みの日はほとんどグラウンドにいます。お父さんが手伝いをして、お母さんが応援をして、グラウンドが家族団らんの場所になっています。

おじいちゃんは、半年ぐらい前から、右の手足がだんだん不自由になってきて、フラフラしたり、転んだりすることが多くなりました。そのため、私は、おじいちゃんの着替の手伝いや、外出の付きそいをします。おじいちゃんと銀行に行った時、がんばつてつえをつきながら歩いているおじいちゃんを見て、私は心の中で、「がんばつて！」と応援をします。無事に家にもどるとほつとします。



私は、時々、おじいちゃんとしょうぎをさします。最初のころ、私は、全部負けていました。私が守りのしょうぎをすると、おじいちゃんにすぐ破ら

がんばれ！おじいちゃん

白鳥学園 瓜連小学校 六年

綿引 真由

れてしまいます。私は、おじいちゃん
のせめ方をよく見て覚えしました。守り
だけでなく、せめも大切だとだんだん
分かってきました。ついにおじいちゃ
んに勝つことができました。勝てるな
んて思っていなかったのです、すごくう
れしかったです。おじいちゃんは、と
てもくやしがつていました。

八月に入ると、高校野球が始まりま
した。おじいちゃんは、自分もソフト
ボールをやっていたので、野球のルー
ルをよく知っています。だから、いつ
も私に、教えてくれます。自分一人で
見ているより、おじいちゃんといっ
しよに見ている方が、楽しいです。

こんなふうには、おじいちゃんと夏休
みを過ごすとおじいちゃんの行動な
どが分かって、おじいちゃんへの接し
方が変わり、私も、おじいちゃんも、
楽しく生活することができるようにな
りました。

来年、私は中学生になるので、おじ
いちゃんが自転車を買ってくれます。
元気に通学する姿をおじいちゃんに見
せてあげたいです。

思い出

わかすぎ学園 那珂市立第四中学校 九年

和知 七美

お母さんが亡くなって、そろそろ一
年が経つ。時間が過ぎるので、こん
なに早いのかと実感した。ついこの間
まで、毎晩泣いていたはずだった私は、
何事もなかったかのように生活してい
る。日に日に、母との思い出も自分の
中から消えていくような気がする。

中学三年になり、クラスが変わった。
自分でも驚いたが、仲のいい人が一人
もいないのだ。今まで多少の愚痴は同
じクラスの友達に聞いてもらっていた
のだと、今では思う。今はその時間が
なく、ストレスもたまり、イライラす
ることが増えてきた。私は学校が嫌い
になった。毎朝吐き気に襲われ、本当
に毎日辛かった。父とのケンカも増え、
話すこと少なくなった。父に毎日吐き
気がひどいことを伝えると、「今まで
耐えられたんだから大丈夫だ。」と話
を聞いてもらえなかった。毎身体調は

悪いし勉強にも身が入らなかった。そ
んな時、私はある新聞記事を見つけた。
岐阜県の女子高生が書いた、「母の死
に涙 でも前を向いて」という記事
だった。「ふと昨年夏に亡くなった母
について考える。会いたくないなあ、とか、
今何してるのかなとか。亡くなった直
後、泣く暇もないくらい忙しかった。
少し落ち着いたある日、誰もいない時
に母の遺影が目に入った。母の最期を
思い出してずっと泣いた。母は私の高
校卒業式も、成人式も結婚式も見られ
ないんだなと思い泣いた。勉強と家事
の両立が大変で泣いた。掃除はロクに
していない。ご飯も適当。そんな我が
家を見たら母は怒るかなと、父、妹た
ちと話している。私は母と一番ケンカ
をしていたが、誰よりも母の死を悲し
んだ。『お前のことを一番に思ってく
れていたんだぞ』と父は言う。もう怒っ
てくれる母はいない。ほめてくれる母
はいない。でも、前向きに歩いていき
たいと思う。母より長生きして幸せな
人生を歩みたい。」この記事を見た時、
私には驚きと安心感があった。自分の
今とそっくりで驚いた。それから、失

礼かもしれないけど、自分と同じよう
に辛い思いをしている人がいることに
安心した。

ふと、昔のアルバムを開く。母と一
緒に写っている写真はほとんどない。
母は写真が好きではなかった。初めて
一緒にジェットコースターに乗って、
私が絶叫したこと。最後に一緒にでか
けた場所は夜の海で、最後に一緒に食
べたのはCOCO壺のカツカレーだっ
た。意外と色々覚えていて、現実を押
しつぶされて忘れそうになっていた。
昔は好きで、母と一緒に聞いていた
K-POP。母に教えてもらったきん
ぴらごぼうのレシピ。なんで私は忘れ
そうになっていたのだろう。

受験勉強も面倒だし、友達関係も面
倒だし、家の事も面倒。だけど、あん
まりサボっていたら、母に心配され
しまう。特に目標がなかった私は、自
分の為ではなく、母の為に受験を頑張
ろうと思う。それで母が少しでも喜ん
でくれるなら、と思いつながら、私はな
んとか毎日生きている。

「家庭の日」図画作品
コンクール
金賞図画作品



きれいな花火
青逢学園 額田小学校 1年
平山 海翔



とまとがいっぱいになったよ
わかすぎ学園 菅谷小学校 2年 藤咲 もも



弟が生まれたよ
ばら野学園 菅谷西小学校 3年 神長 蒼典



家族パーティー
白鳥学園 瓜連小学校 4年 直江 真歩



家族みんなでぎょうざ作り
わかすぎ学園 菅谷東小学校 5年 広木 淳之介



家族旅行でリフレッシュ
ばら野学園 菅谷西小学校 6年 村田 奈穂



今まで、ありがとう
青逢学園 第二中学校 9年 宮田 桃子

「家庭の日」図画・作文 (銀賞・銅賞入賞者)

図画の部

学年	銀 賞		銅 賞				
小1	仲田 結莉	鈴木 秀也	にかいどうだい 二階堂大智	あかせ ほのか 赤瀬 帆海	なりた 成田 はな		
小2	うらべ 下部 実桜	いなだ あゆみ 稲田 愛弓	せげた いつき 瀬端 唯月	おおたか すい 大高 粹	むらやま のあ 村山 希愛		
小3	こばやし みらい 小林 未来	ばばさき たまき 馬場先 環	たじま ふうが 田嶋 楓芽	ふるや らんと 古谷 蘭人	おおたけ おおたけ 大竹はるか		
小4	くまた ここね 熊田ここね	よこやま 唯い 横山 唯	おかざき まお 岡崎 真央	はやさか しゅう 早坂 彰悟	かしむら 聡介 樫村 聡介		
小5	えびさわとうこ 海老澤詢子	いしい なな 石井 菜直	やまだ つばき 山田 翠	こやし みう 小林 美海	ひやま みほ 檜山 美穂		
小6	とびた わかほ 飛田和香穂	きしだたいし 岸田大維志	なかの りっか 仲野 六花	しばた みずき 柴田 瑞姫	たなか みき 田中 美紀		
中学	いしかわ こうだい 石川 滉大	かわまた こころ 川又 心晴	かもしだ ゆめ 鴨志田結芽	みやがわ 凛桜	さわか 佐川李々花		

作文の部

学年	銀 賞	銅 賞
小1	こいぶち ほのか 鯉淵帆乃香	おその いちか 遅野井一花
小2	せきぐち てっしん 関口 徹真	おおもり あや 大森 彩
小3	ふなばし りつき 船橋 律紀	ハイブズ ジュリエット月
小4	くまた ここね 熊田ここね	くにひろ まなみ 国広 愛美
小5	きなせまさや 木名瀬雅矢	とみやま じゅんき 富山 純希
小6	こばやし りく 小林 璃空	ひらやま ゆいな 平山 結菜
中学	かもしだ ゆめ 鴨志田結芽	ほそが いさつき 細貝 沙月

那珂市「善行青少年をたたえる運動」

令和元年度 那珂市「善行青少年表彰」審査結果一覧

氏 名	学校・学年	推 薦 者	善行の概要	結果・備考
菊本 夢羽 海野 心美 (那珂四中 夏希の妹)	わかすぎ学園 那珂市立 菅谷東小学校 第5学年	菅谷東小学校長 會澤 範雄	②緊急時貢献	友達3人で住宅街を歩いていて、倒れている高齢の男性を見つけたので、すぐ駆け寄り声をかけた。歩けそうな様子だったが、大きな荷物を持っていたので分担して持ち、家まで送り届けた。
海野 夏希 (菅谷東小 心美の姉)	わかすぎ学園 那珂市立 第四中学校 第8学年	第四中学校長 増田 忠廣	②緊急時貢献	友達5人で下校途中に、縁石に座り込んでいる高齢の男性を見つけた。声をかけると、立って歩けそうもなかったため、5人で両腕を持つなど手助けをした。
清水 飛翔 井上 優希 安原 大稀 谷地 章一 後藤 稜太	ばら野学園 那珂市立 第一中学校 第9学年	第一中学校長 佐藤 知光	②緊急時貢献	友達5人で下校途中に、縁石に座り込んでいる高齢の男性を見つけた。声をかけると、立って歩けそうもなかったため、5人で両腕を持つなど手助けをした。

こどもサロン

今、学校では
ばら野学園
那珂市立
第一中学校

題字

ばら野学園 那珂市立第一中学校
八年 海野 愛莉

本年度の活動を振り返って

九年 生徒会長 安齊 結太

本年度、那珂一中では生徒会と学級委員、各行事の実行委員が連携し、本年度生徒会テーマ「仲一（一中全体の心が一つになること）」を目標に学校行事の活性化と生徒主体の情報モラル推進を行いました。

体育祭では、各種目でクラスが一致団結するとともに、今年から始まった



縦割り種目において学年の壁を越えて交流を深めることで、「仲一」の達成に近づいたと思います。茨野祭（合唱コンクール及び有志発表）では、短い準備期間の

中で、実行委員を含め、多くの生徒の力を集結することで、感動の茨野祭を作り上げることができました。

特に、生徒会が実現したかった新しい企画「一中生の主張」では、五人の生徒が中学校生活や友達への思いを発表して、行事を大いに盛り上げました。

情報モラルの取組では、昨年の生徒会の先輩方から引き継いだ情報モラルに関する考え方や実践について各クラスで話し合いました。その後、菅谷西小学校・五台小学校の代表児童と「ばら野学園小中一貫情報モラルのルール・マナーづくり」について合同会議を行い、小学生とともに考える機会を設けました。提案された意見を基に作成した「ばら野学園 情報モラルリーフレット」は、私たちにとって大切なものです。ばら野学園の全生徒・児童に配布しましたので、家族と一緒に読んで、インターネットやゲーム利用の危険性や、家族や友達との関わり、健康的で安全な生活のあり方などについて話し合っ



てほしいと考えています。最後にありますが、那珂一中の生活が充実したのにも、地域の皆様や家族の協力のおかげです。本当にありがとうございました。

まちづくり委員会

まちづくりは人づくり



額田地区まちづくり委員会が支援している「ぬかだの子どもを守り支える会」（成田敏行会長）が、子ども自身の発達と成長に寄与することを目的に取り組んでいる「ぬかだサタデースクール」について、ご紹介します。

このスクールは、現在、地域の有志（約八十名）のサポートのもと、小学生を中心に約三十名が月一回のペースで地域の環境美化、地域の歴史・伝統行事および自然体験等の体験学習をしています。

ここでは、今年一月に行われた伝統行事「昔、小正月に行われた「鳥追い（ワーホイ）・まゆ玉飾り）」の体験学習について述べます。

「鳥追い」は、古くから各地で行われてきた行事で、竹やワラで作られた小屋に正月かざり、書き初め、お札などを入れて焼いて（その際「ワーホイ、ワーホイ」と叫ぶ）、田畑の害虫や害鳥を追いかけて、「五穀豊穰・家内安全・無病息災」を願うものです。

今回、子供たちは、これを実際に体験し、地域の人たちと交流を深めることができました。

伝統行事を再現する方々は大変でしたが、子供たちからは、「地域の人たちから、昔のことを教えてもらえてよかった。」「楽しかった。」などの感想がありました。

今、世の中は目まぐるしく変わってきており、感性豊かな人財が求められています。幼少の時から社会的体験や自然体験等を通して、自分の頭で考え、行動できる人財を育てていくことが大事になっていきます。額田地区まちづくり委員会は、今後もスクールの活動が継続してできるように支援したいと思います。



編集後記

「おはようございます。」と大きな声で挨拶をする子供たちと会うと、朝から体を丸め、ポケットに手を入れて寒がっていた自分が何か元気をもらったような気がします。

職人さんの間では「挨拶一番 段取り二番」と言われています。

仕事の始まりは、元氣な挨拶から始まるという。人と会ったら自然と挨拶が出来るような生活を心がけたいと思います。

広報部会長 袴塚耕二